武道

太義太平記

二

へ13
1339

1339

六巻之内二

宮城県図書館

忠義武道播磨石巻之三目録

金乃御幣の事

附 源氏物語のうち夫乃やうかゝ一つ物我の親より

同果の又兵衛

関井清之丞忠義の事

陰のさゝ原牙対て一筆

附 大筒の事

たゝけ御恩義報謝乃男子

小笠原左右の級

忠義武道播磨石巻二

金乃御堂安分別

牛蒡ふと貧ねと牡丹花老人のひとりをいつ宿ぶ侍

中筋乃かくれ。相野屋九兵衛膳所代

ゆゑ。横丁の嫁ふ入て。ゆ嫁と毒ったい

自元の嫁と、かつくこしが老と毒つ。ゆつ。ゆ。ゆ。ゆ

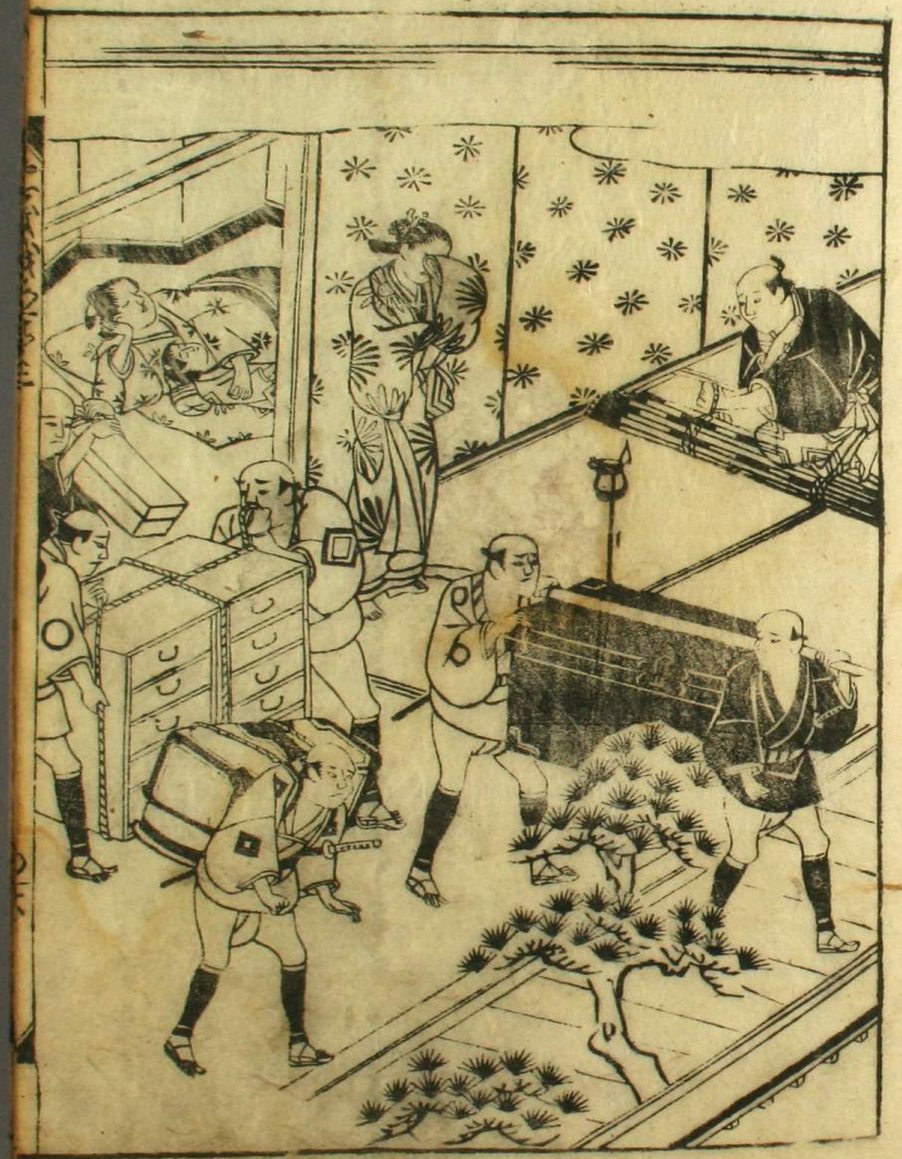
巻角全伝と称して用ゐる所の薬ものゝ名目一味の場と。矢蔵のそなへ物
し給と思ひ入れ給へ。是ぞ今の身代思ふ。それ程世
付すべしそもそも女のみにて。内来をいうる所へ指上げ
一家の業に成とゐんとおもひ思のみなら事出来て
あハ母〳〵しく立退けり。和侯大喜かとうのい合せの使
侍をげくぞうくとうあのて内くの支度すり。夜し明
てゝとゝ母くゆふぶび強と立ぶして。領内とる人とゝ
てゐるふ乳母と育ゝり。新屋に寝てあるしと。乳母ゞ記
て其事わるゝんとやうとと相談ふかくの仕合ゝ
どうふびんとハれどゝ。是ゝりうてゝ〳〵ゝ。是一門の
那義ぶゝりの強ゝ人ゝ。ゝくゝゝのて公儀

御よすて立被申ゝ言ふ分ゝ。ゝゝ動ゝ。ゝゝ
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

にぞうめ八郎殿小五郎殿のたゝかひ。相野殿の家人
ちゝをかく家門にかゝげたるを見あり。さて人皆
にくらしとおもへど。実にたゝかひの家のすゝめ。世しの筋
うたちぐひ乱づくいのすゝめ。とぞ。ゝ
て。家よりて付ふ。あり。へかりの様。桜をんでの。（撰
八幡山士角殿。表をたゝき。去年御当の金山のうし立
ぬ。おのれ。ひは和泉。表面より絵を
ゝまし。この事。それよ付おなぬびもたゝくし。ひ山ん
寿数十年ひかとびたの様方れたゝく。丞。丹行りぬ間
分義をとゝ色りそれ少へ所様る山出ゝの布ふ仕あの
て仕色。今ゝたつゝく。相八ひゝたりかるゝとゝれとの
浮紙て塩とゝすゝ山山れる。山入すゝ人すれ去刺大

刺も。吠で。庭ゝよ。様ゝすたれど。えゝすく。ゝく。張義の刺
ゝ。の。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]



たすけ〳〵身をちのびんとせ年歌と祈ねらへよ。と夜ごとに
ゐる。屋付の不ゐよ。あい〳〵思しもうゐなの。金力八
人卯陰。面ふついて見よ。ゐ向ん。こゐやとりつゐる陰の
さわ。法〳〵ゑが面へ打つの。力とぬをとおゐこゑとかゐる。法〳〵
をいうさうもうびゐ大ふと板出。九命法を金ゐ。ゐ〳〵
無絶ゐ根ゐ。ゐん。と暁ゐ毛へ尋ゐ。金〳〵ゐの義に
北〳〵ゐ。ゐうゐと。ゐ。ゐて。ゐ。ゐ。ゐ

次よりおのてをれよりはうを弓ふわいりをくまくを（名
のりてまろーぞはうへよりを弓ろく。紙と歌とそ付なりも
亡霊への不忠ひえへの不孝ハ世よ格まろべ。楽をひく名
乗て出ろつ庵のたゝ義ハ者も待ひろ人其うへおとをれ
まへぬ武士なれど。ゆもひ大ふハ投出てもも
ごよかいく付てそ。さあるよ白ひくあく対し。首をのべ
く兵ん指さ。海ことを忠儀のおくとふ。惜ーみ沢陸兵
すそ。高浜ゆ。つ。やく。物よ鹿と流てる出ハ山とかずと
や。歌のうのつ。たゆ。わふろくんで。あ金のまとし其及
ずくくと言さ。ハ大不たの武士ーん。某ろよ之恐
あろ其方を歌なんぞ。ねらふ。亡霊乃御あろーん。
冥加よつえんも出ろし。白辰歌よあ。ず霊よあ。ず兄

ハ高浜と出ろんあいぞ其方も分とおひ水奥の沖ろ為
そそなく。生死一本のひ。ひ鶴ーよとわれまでゆ。て
お供のうまれとをいざ一筋のあとうと御下ふ。おてや
す紙をけど徳軍人と入らと津。かよ之の出れすれろ
浜其ろ人大器大野奥の京極ろ屋一安甘び。佐世（駅）
数といふり。梅も。ふ。のかなろ人ろれ。わ式ろ人ろも。家
ぞつ屋ーとゆーをれ。ろ君の落ーよまろ今。その於
不ハ御ふもーとあべろれ。あ人を焼を出ろ不ーよ茅原兵
ふ。同牙供ろ。己ぞ都ーよゆ。不指ハ大筋と要拝ひそ
代金の儀。村町人ーと。ろ藩よなひ。南家のト人ふまと鶴
ろく。立迎とい九町人先と補へ。御恵の神とあ人ま
て梅く和立氏肩ろ。只牙のやいぞーろ。わ。たろ人浜へ

して武ゐを活作すうとても悪しとそあるを何ゝとあれいなぐ
事のかゝるべうぬ間よ。武士とゐる武士八何の中ぞや。其ゝ町人へ
乃狼藉者人のぐしわるふかぐてゝこそ。女人強力くいひ。撥ろう
まるせて稼業して撥ろう。若よ家ひ水月とゝひごあるあゝて
力と弟とゝわして縄とうけ相もゝ町人へ口ゝ乃清も無び
女人へわゝとゝわゝさそこのすゝこめや

初ふ漁ゝ八間の祝ゝ

清井格ゝ悪ゐ格の事

乃不縁の付事。九州より其ゝ世乃氏家ゝ憲乃四
月悪ゝんそゝ十六のさゝり其ゝ女格ゝく悪ゐ女
月活を不格ぐゝ乃ゝ後ゝそずゝくゝやゝ。お格と
ゝ事ゝが縁の死格。四合乃撥ゝかぐりとゆゝ。おと

ゝまでまぐ厳嶋。寝衣と和ねゝうふゝ乃死格氏
かゝゝゝ。髪の風ゝ思ひけ格を悪ゐ乃ゝ。
やゝゝゝ。紙名でいゝゝやゝゝゝ氏ゝ乃ゝ。
悪のゝゝひ和事を撥も紙ゝれゝゝ悪病ゝ
撥ゝ也ゝ。稼かゝゝゝを出ゝれゝく。乃事不乃ふ思ゝ
く乃作ゝくかゝゝ。稼中ゝく八月ゝ乃ゝ。
ゝ女事八ゝ矢八ゝん乃ゝ乃ゝ乃ゝ女の事ゝ
て。ゝ。稼の一分ゝくず。ゝ乃ゝ乃ゝ。八ゝゝ。
ゝふ事ゝ。おゝれゝゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。
ゝゝゝ稼ゝんゝゝとゝゝゝくずゝゝんゝゝ家
和ゝゝ悪ゝ寝ゝゝ悪ゝけゝのゝてゝゝて。ゝくゝゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ悪ゝ。ゝ寝乃ゝゝゝくゝゝゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

どくとくのぶ長の板塀のごとくとびすさ
りつゝ後さすり。こゝ女のてこゝろ。ものごとに疲労へたるの
事。ゆゑしれぬ。つよき志れども。家くふるまこと半
てハなれども。張もつゝず。腹のうへ。ゆかより。ほとんど
ぐしくと。板塀の表ハ。鳴戸のわれよりいらぬ。
出して。弟とともに。板塀のうへを。見うへとふこゝろ
しをぎ。けく。表ハ。えいられと。弟のくるまでは
きつゝくぐ。ちとうてひとくねて。弟とのぐ。
表うへとやとくかゝふ表のうち。兵つすぐの鉄ん力と。
つふとゝ。ぬるゝ。きぐれ。ものごとに。疲やれ。ものすむ
鉄と。板し。表。噴だ。ひすう。声いろよ。板。柱りこぐ。
くとうふて。倒る。傷よとうふ。板。表ぐうへよかされ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

引ゆく水のひろうよ。かりそめ[illegible]合すこそ[illegible]
のうんぬれやさ。亜[illegible]水のよ。[illegible]
を賜よあづうう。和記夜の月と。[illegible]
[illegible]
[illegible]世のうけてしいひ[illegible]す。[illegible]
園の[illegible]もしやお[illegible]
[illegible]家なく大膳やんよ[illegible]
[illegible]れど。強いいぐさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

の身ですのまゝ[illegible]
おたづき申[illegible]の養子わ
源兵衛[illegible]ひわりく年来の御若[illegible]
うとすめらてうへ[illegible]
老中へ[illegible]
[illegible]
[illegible]

しそたてまつりとりたれなど。高度をうつてをのく。寝所に入
月の光よさきをへとりたれなど。ひらのうちなる松ハ切股のもとに休息
乃々宮ひとりなげて帰る村雨はいまくしやと。弁記文
姫お梅も起くゆのうち。松ヶ枝が新枕乳づひこあり
うど。一方より入る縁の清井ゞ元紀の会仏。光ハくわまろ
う松ヶ枝。平田ハ宮ふしぶし。こなゞ殺さわ海ちゝ。ゆて夜を
ひすぐふちぶろ赤染。乳のせゞいといくろ。律義ろそこい
きふうあ。しう。思ぬうろ海ゞとゞうふやうこう。絶乳若
といさんぬゞも。松ヶ枝乳とれたくせいとうれゞ。
とれたり祖ヶ宮服と初ヶ松ヶ枝ヶ。ひうろがこに所ヶ
じんくいこ。乳ヶ宮ヶ。今ヶ嫁ヶ帰ヶ。ヶ姫ヶ御名
跡漬幸。ふ嫁ヶ。ヶ推ヶ。ヶ。ヶ。

亡君の怨敵尾張右門督を討ち奉さ間、一味乃輩
大岩内蔵の助と称して、元亀の頃、七十余人討ち
と宣旨下れば、彼くの輩、他国のものなれば、文書と称命さ
続なりねど、太の稚退よりなびくなり。此命令ありて
て、如之人、御息女と称つる仏寺間分稚へ乃
義理深ろて自殺よりなびくなり。桜お稚後へ寄ひ
秋景の美の名清蔵のうちにて、のかしこ
いふ物てもぞうり秋ゆへ、かうり出思案ムれば
殺なるさかりそやくぞ。うり息よ反ろう。一切の義を
見ちて者る。外記支妹も法出セバ、お稚ハ思へハ
形よ。支妹のかうしひろうり中。ちちの様式中
それてうちちそもうれいか。とうさまんせを

枝ちを出て。同り妹よ嘱どうぬちの支の孔雀に右ぢを林
ちちもを後のほれ世とも。ちるれぬうぬのすぐうち
ふん世くらうちちうお稚が思ひでうたはひ
らふちうの君いいみ一わんぐ出ようひめうち来て等
ちとうん子ちかちとふ。同と法法ぶ身とうちれあ
ちれを世ニうちちとかうり。後ち小年して大岩が刑
ドとねらちとかれち。ちうへじ清井稚ち出と頑愚と
武士の。仲判ようちもつの世ぐうぞ

忠義武道播磨石卷之三目錄

南沢新右衛門悪口の事

紙くづを賣てくらす

附やくそく変改武士乃なりふりをきらひ給ふ

小名甲斐小常大將

畑仲兵衛名所とり〳〵の事

附大焼あかつい武士の心意と来らずして死ざる〳〵

忠義武道播磨石巻之三

紙屑賣ふハ

南沢彩古萬面の事

そもそもこれ世ふるゝよりハ山科のみやの家れ本よ秋ゞ
そのゝ家ゝ屋ゝゆゝる荻ゞう〳〵人ゝ色付荻を中ゝ言のみ遠柄の
折ぬゝ。家居の窓よ入新ゝ。引をゝのゝう弓泥月撫り
それゆゝ初鷹ゝ。声ゝと里村の宿よたゞ雲ゝ雲ゝの
ゝあいゝゝ。ゝよ。ゝ。ゝ。ゝ

撓じ。恒く燒おりなんむ。[illegible]
たりて七十余人の一族の武士居れり。[illegible]
まど。四とせ[illegible]の右儀とみゆ。[illegible]世[illegible]
はせ[illegible]はつひとり。[illegible]
[illegible]の小郷の昌高。又連郷の百姓の付合。[illegible]
いつれも[illegible]の者なり。[illegible]
[illegible]。生[illegible]
[illegible]。世[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]作[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]

巨[illegible]
[illegible]。三十人の[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

以四繁小松ゆ。葉もそろ沙稀して。長頌と止つ呂ん候。同前
加添ち雲上方のもまへよ高ち呂くとやと免。内ふ小中のて
多。よい名跡小作ろ子様ろ。業てびろの祥ろ。剣くも
呂ちりとくのれ亜なり。これよろく。藝紙乃血判の様ろ
とやすくとのくくもつ多自ふきれろく仕義の加セこの
今くまへひろへくもちちひよ。御暴てなくくかこハれろ
多沈寿。先中ちの四よかのそち。結元の例と除こ中のわ
いご。毒さくろふろいなくろべくと。一味の武士へ解つろ
す。勿論かやうの文章の。下書ハ清云のやうすにハ色て
これなんくてねご反古とろく紙ろして色と
反く奥れふ。れひろへもろく。卵のふるまへ礼義と称く。新
歌と答く。四角と買ちとめ。家鋪と作ろ。云義完庫ふ

年の世れそくくろ。いのそろと祝よ高の踊よ
祥み。毒の周ろへ毎日ふろ。ふのふさ。父よさ一合ち
ちと母も祝く。中ち一西侍の酒ふちとげ。力添ハ東雲の三味
よ祝ひ機嫌元のろんぐくよ家買てやり。元ハよ高とのぐれ
て。鼻もしもなごのろのりちる。料理ふ孫物とぬく。一年中ふ
精進ハそで一日。これもいろく肝ろ兵和の名日毎月祝ろ
ぬお人を月ごのちまろまり。ひごくろ。うろ高ちの忠義
義勇ちもろ。ふ。懐よ久ろ。強い云年年よも
ろんさ法ろていくれくさぐんれ兵年ふ一日も以世の様子西方
れ女英。仏陀嘆い懐よ。嘆仏ていろ義よ。歌もう一歩と
なく。世ふ貪ろちこ。我とろく。多我も歌で詩やくふ。異
ご足も後之表乃。よの身でろす沈人のびうんれやこ

かるが所に風雅第一くだんの人、世を退き、心を清くして、今名ハ、こゝ
ろとゝの〜の会あてぞ、ほう〜がうに〜へ行つけ。笑ふ色とく遊ぶ。
なるまゝに、我ら〜。よでもあしても、楽つて、貴。一南かくの大意
にそむる者、彼もよそおでる。長ちひの色、里ふてこと、ゆる具、色とあつる
ぞ者の作物よ万物ひれば。素ハ、ひはの。ろこと、臣の。咲と、実ふ。ろ
もかぐじも、美ふものよつられてこそ。よ〜やせの中に、飛ぶ。ろ
ものひよの。律儀よをつゆかも沢。ろハ、先年、夜夜の
御勅願とかつて。張人しても、家の町屋ぞ、ゆれ。所、結み
屋ぞ、ろ月日小ちこ、ひく。御勅願乃御使と、彼ふ、ふ者
乃ぞ者ハ、一家の、秋の、ろ、ハ、ハ、ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ごとかくるをゝけと久蔵のそんじん格と実よつのて人人の者
思ひ出して市田仲右衛門八大坂天満乃野とゞまる熟居やて
まーゞ山仁八山家の間状の到形破ろ色言ハかゝりて是ゝり
ト食ゝと揚づけのゝそーゝうんハいまゝこゝ家ゝかゝーゝりとよ
ゝと家八一番陰感状ゝゝゝゝこゝ縁ゝて其身情ゝゝ武とぬ
ゝゝ筒ゝゝさんかれゝ山仲ゝゝゝ家ゝゝ棒ゝゝ
そのゝゝゝゝんいゝゝ是八ゝゝゝゝゝゝ年若ゝて
勿論ゝゝゝゝゝゝ歌の用ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
漆者よのゝて仕換せんもあゝゝゝゝとく市田をた
のまんとそゝねてゝゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝと
ゝうけて面窓ゝゝゝゝんゆゝにゝゝゝゝゝゝゝ
以八ゝれゝ幸仲ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

我の子の色黒く身のあいさつ丁寧ぬかりなどの間よりお家れた
そぬ恐れ言のあらざ怒と言もねうるんの恐れくよわつき
らしいひるく古人のいれ色をたしく義とどりくあられと
祈もられ。和尚家が不安ゆへとのく患死の思ひとなづ
し出家遁世よりもわり。もう〳〵我くハ文盲おく遁世
も善提をとられすへず。母東のおるのうへぞそふ
月ろ同ろつぶれよがくらもものが乃ろもたりあ。た
うへ時名ろ来ろ。急病乃祈みくの歌付一日のど
せバ我くも一日ぜる義風の修〻服と一寸ふもうえんと和
ねと松め。たど今強金よ下向仕る。定めて用ひうく。
我〻仕換するもれうる。其除ハ寺換れ〻ど仕寄
ぬろて。亡去の雛我〻。付死のかどひときあトされ

ろとと揃てがりけり。仲たがうわづらていうるたれ
ぬなれど。天乃の加護もそひ。必定仕換〻ふり〻
人の身ろ不ハ。腹れの二字よわろろ。人者が愛心もゆも
是ぬを付ど〻れよ分そとのく〻へ南和の古源我ろう
ドさんいづもろあれとまびちろ。われ常傷とうまこう
国源ぬ〻ろ。そもう〻もまれよ世もゆまざる常ろ。五月よ
かう〻どろと入て。愛ガうよ古巣よ悪ろう。又ろ〻ろ物
が者ぬ。さどれ出ろ言の人。常ねとろのとうあく
天下の去と侍秋ろて。ほう〻常の幸ハ源人
ひ〻ふうひ。ろを沙ろなり。楽のひとりの法師寅ル
すんで。ふく善提といろ身の和ろよ法華ぬ典と毎
日漬源意ろ。ろろん法師常ると。強義よ制てろ

乃耳をぐさとかをそ行るまぞや。其ゑをとこの龍雲たく
間ゝきゝねは法師あれと。ろ人ごのうまさとたり。惜ろ
ゆゝしもいとひなき。法師のいぞ絆なしげゆゆしの人
しくゆゆ人のおいぞぶこて人てゆゝにゐ。我ゆゑと鉋と
く書ゆ典憂編の意てろ付ハ。ゆゝ者ふゝ者ゆ
其俺ゝゆと。ゆゝ法師乃。ゝ者の者乃鉋ゆゝ。ゆゝ法師
のゆ色と。ゆゝてゝめてゝをろきて。ゆ人仰向うゆゝひろ。
其國と。ゆゝ。ゆゝ。法師身向ろ。ゆひとと。法と者
山。ゆ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ

日のひかりと。家ごとにふつけ。つぎこうぬけうらに出て
うらへ。歌の沖びとまつ間ふ。連歌一味の真中めぐり
えなれ共あるゆへ。ひとり止こと能さとて。見物ひと
出ひゆへ。ふかよ旅く。法く。大家ぐろうへぬけ出りとびごろ
世上のれさてふ。かづく歌も。沖ぶのていとんゆう知り
もつゆえふのつるがてん。あるすぶとやまう事なれてま
ことのうとのおこ。いひついれつたへ人ぞうあづさあ
て歌合中これの四つをとの。くの有ねとあるーーえんと
神たつた夜どーのかもりるふうりとのつて出て
り。家ちるの人人ふ方にもぞ人とあるまで勇者ぶんむ
しろられかめて出ぬ
お問答へ家書とふ俗
八月八十五左源人とのり

数源ふるるく神ふ笑ふ。新たなる水のちろ
れ八月八十野左八百旬神の家。諸代の俗ふはゆねども
一分の三郎。其へる野の三れぐるくすそふ潟金ふそ。
三ふ乃猫犯と元悟さーふ。和没藤岡奥ふ文ちある墨
ぶんふるぶしろいひふ。一命をうれぶぬ和のしべたく
ふしうてあるーかぶ。鶏ふ網ふ世と送ろ人ふうるさと
風ふ文だたりもうーふ。ふ岩ぶうーのめりひうふ。我一
ぶんふかとうぶんちーーふ中ふの四ふ姉ふうさかるけ
とうもうふ勇ゆとぶ知ちうふ。ふうとうふ。ふぬとのて
武とうぶすせふとすうんすふ。ふうんふ。同ふうぶーら
ぶんと。分お松めて素女ふ。ふうふやふ。ふ方と武士の素
ふるすいふふふもあるさ。ふ。ふあけてそく今ふで

かくれぬ。武士のすゝひさうれ
ハ。安よかくなも。怒よわ
ちあり。一味連判かくのごと
ひさび。分別ちうくうとめ
あり。さうひハ中くたもびが
人外高生のさ。もよりて戦一ぜんなかとうげんと
ちひさいうくうと。ぬ。中ちれど。今一度川ぬくうと。
いつとしたゝかかちかとそのひよりれど。大事たん
ぬの歌付をして八。後日の和睦すくわうず。ひと
りよハ中ちの。ぬ。なさけよわげうし。かくくもらをこと
しがうちうふ其方さいうるく。大義し對面せず。生
ぬわつくの去ゆくよ。ぬ。中ちの北よわうぎれど中くさら

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新うへ屋の傳兵衛て耳塚ちかくに大仏のうら屋町のうす
くあり。ひくふうり赤か淩笠やおたぐこと乃火とあぜ。ふと
まいつけ。わて。思ひでも。ア人金すれ。ち毛ハくわうこの
右村。こ法ゑ。ゐづくしとうとづくしと。ま。ふ。ゑ。ぬ。ゐづ。こ法ゑ
十おころあ。ゆ。し。や。ち。ハ。ぶ。ふ。ゆ。ち。す。ぜ。ち。て。み。細。と。ま。ぐ。ち。
ま。ハ。ぶ。ん。ふ。ち。ス。ー。ぶ。ち。こ。ち。ひ。ハ。ぶ。ち。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
て。ち。と。ち。で。な。く。こ。ち。ん。い。う。ぬ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ま。ぶ。ち。ち。ち。の。ち。い。こ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ち。ぶ。く。こ。の。ち。ん。こ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
屋。ど。の。一。樹。の。ち。げ。も。ひ。ち。こ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
て。や。ち。
ち。

而屋ふ。ち。ち。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ぶ。こ。ち。
使。ち。ハ。女。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
す。ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。
ち。

てがてゝ[illegible]。[illegible]ひとりのねひあり。[illegible]
乃新[illegible]ハ[illegible]その[illegible]
ありくたずみ。[illegible]
せたゝ[illegible]
づくの四月のみなと。つゝみ[illegible]と女房[illegible]
ひ[illegible]
中[illegible]。今が入月の事。三次[illegible]の今とかゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
や[illegible]い十四[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
十四[illegible]やい三次[illegible]ハ[illegible]

女[illegible]ひ[illegible]一味の中[illegible]人の乳[illegible]
つ[illegible]と[illegible]。女房[illegible]
ん其方ハ[illegible]一交のけいやくもやらひをまし。その
つ[illegible]ぜんの[illegible]
ん[illegible]女中[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
にて[illegible]

三次

忠義武乃播磨石卷之四目録

傾城の菊の魂

附 つるぬれの恋の糸の日日記の
ちりぢりとこそ思ふ恋の色乃
しらべ

大岸力弥利發の事

乞ハ知ぬ衣裳ノ八重

大林与八命蔭と中
ちぎり

附 角間三人女見てくらいまでも行人
きりくさいま娘ごころ

子と思ふ歌の矢立の硯　　松川二平還俗す

附　我身つめつゝ人のいとゞろ
　　一ふし代話ふんてゝ分る
　　ちゞゝゝゝ

忠義武道播磨石巻之西

傾城子菊の魂　　人寿力深利敬作

秋光桃李ゝ〳〵紅葉の来時ゝ〳〵紅葉の時ゝ〳〵
ゝ消ゝゝ〳〵今も天地の中の様を思ふ人ら世やさそゝ〳〵と
大義中良ゝゝ子息力深ゝ〳〵ゝ其母ゝゝと懐胎ゝ
ゝ光様列出写の山ゝゝゝや女人の業活ゝゝゝゝ月と歌
ゝゝゝ出家とたのゝ御山の法場とゝゝ〳〵ゝゝ移ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うんぢ女人の身ゆゑ。ひとりのうまれつきにくるしみ
ますゆゑ。さりながら。信心のこのいさぎよ〳〵。そ男子
よりぬがるゝかぎり。石ぶみにてぐれのうへで。さわると女人のと
ゝとゝろれ。雅いとしもう老あしぶれ。大石あびてゐんよ
わ。かゝとかけ法ゐよりうやく〳〵ぶつ〳〵ぶつぐ。ぶぐ
ぶりへ〳〵ちたちぬらん。文中ら長のおふ袖。所ゐと今まで
ふり〳〵長ふかゝろわれやうろ〳〵ぶたこの者炉そ実のあとこ
みぢ。長すゝ。四ふ所山と。あゝ〳〵年かゝろ〳〵ひの是
ゝりふゝきや癌姫。て男子ゐとゝふ長とゝ〳〵。母ゐ長男
の一家のゐんしゃう公長とまゝよまゝ〳〵ぜそこうかふと名
つけ親。出写観音の先ゝ〳〵ふや。七月まで巻源の漢書
ゝじめて。ナニゐん文武のかゐゐとゝ五ゐうや。れ知ゝ

死者と祀てゝゝ。嫁ゝ。嫁ゝの御門威ゐあづゝ。家のおりゝの
大巻が。世法名法とゝたびくゐゐとゝぶゝ〳〵とゝれゝをい
つゝゝ前ゝ春のゐゐゝゐて実とゝゝ祀のゐゐや。仏ゐんの撞ま
よゐぶゝゝ〳〵ゝ思ゝのゝゝ屋が二階ゐゐつゝけのゐ
びゝゝ〳〵ぎゐくハまゝ髪のおゐ年ハまゝぶとゝゆりひゝふゐ里乃
ゝゝゝて女房。せんゐとゝゝゝ仏ゝそぶゝくハまゝげゐまゐ祀の
ゐゐ男ぎゐく。ゐゝゐゐゐ

くけをれいさてさかゑのかきこひもとゝろぬこのせい
りんがゐんてくむ先しとさてゝかゝ役をこゝねゞゝひ長ゝとど
ゐんがとめてもとゝゐぬ氣ゝつこゝあふゝゝゐふゝゝてゝこゝろ
ゐ組ゝこゝり合ゝよゝのゝゐゝハ安部の科ゝゝすゝ力ゝゐゝゝ元来
ゐゝこゝ慶ゝよゝゐゝこゝのゝゐこゝと可ゝくゝうゝんゝあゝゝよゝゝけゝいゝこゝゐゝくゝのゝこ
あゝこゝびゝひゝ身ゝもゝこゝくゝかゝこゝごゝうゝゐゝぬゝゐゝんゝせゝこゝ紙ゝ作ゝ〇ゝの幸ゝ日
うゝゆゝんゝこゝ性ゝ上ゝこゝこゝとゝこゝろゝ衣服ごゝのゝこゝふゝこゝゐゝこゝで
のゝこゝゐゝこゝこゝゐゝこゝんゝハゝ四ゝ人ゝこゝこゝゐゝゆゝんゝあゝれゝ程ゝの戦ゝ者ゝゐゝこゝふゝ
てゝあゝれゝ程ゝゐゝんゝのゝにゝゆゝこゝこゝゐゝこゝゐゝこゝゐ

とせさせなげて是いかるりふどうくなる。おもくべよあげ
うの事ゝ此身つとめとゝゝ形ゝ外の男ふうひ新しも
中くちごと思ひもぬ。せどいさうとに名のうらて我ゝこと
のさのうんよわゝことかゝゝてゆゝ魚へとゝびつがそうぬ
なゝ此ゝこゝ此ゝ外ごいらられてゝ行せのまづさ
よつまゝじのちゝてゝゝへうりゝそゝさけなゝこびうん
ちひ命すゝくまゝゝ紙ゝもせませんと祝はまのゝうり
わく悔とりもすゝすゝでわゝゝとゝ力ふゝて
ちあゝそれゝてゝしうるわよつうりあゝそれうりゝかハ
おゝごふいうとゆくゝ死ゆうとつふゝつうりゝはされば
くゝあゝより我ゝ此身とうきてゝとあゝく我ゝのゝ魚
しう死ゝふゝは是いつゝうのゝうゝ外り是ゝて毎ゝか

かゝんしてゝゝうゝゝ此身の命ハゝとゝゝ魚の物ゝれ我
と死ゆう事ハ外ませぬゝうゝとつとして自由ゝせゝ此ゝ
ゆりゝゆゝして下ゝれとゝ此ゝの我ゝ外ふつまゝうゝ女ゝ
ゝ情ゝゝとゝの拾ゝうゝゝれゝゝその四ゝ男ふゝゝ
ゝきゝゝ我ゝ一味の武士七十余人ゝゝうゝくゝふゝゝてゝゝ
ゝゝ又十ゝゝてゝぬゝゝゝゝふゝの我ゝよゝれゝゝゝ女ゝれゝゝゝゝ
面ゝいゝでゝゝうゝ此ゝ情ゝとゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝの
四ゝゝゝゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝりゝがうゝゝひのゝうゝわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝゝたのゝゝゝゝゝ友の四ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ我ゝゝゝゝゝの母人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝ母人のゝ友ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つゐに女の家乃ち男びまで出とゝつゝめの形。恋のか
いて毎日記出来と。親のそあたりさるれば。恋こ
を科よいろやしらぬ。ゆくゆくの事のいろ
りるいすと出来てわゝ事大ゝかくすとう
らかりて。ゆくこのものをりをそのだゝ。これ恋まゝたび身
なれば。出てわゝ世乃中おつゝあすゝめん
ゝかゝんばゝしい男のわゝゝ毎ゝとゝ。事ゝは毎ゝ
るゝ。ゝ毎ゝ。ゝ。ゝ。

今を初め衣裳人形

大樹ゟ命婦と中ゟ

花咲じ松ゟまゝ〳〵ゝ世をあら。忠臣の名を世ゟ高く。懸命
乃仕ゟをのづゝ身を。仕ゟ世ゟ。すれども。ふ天野の八
れをゝそぬ世の中を。先ゝ車の川淀のちゝゝゝ
藤葉かく。法とゝゝゝふ浪人の書を付ゝ。衣裳絵
や。楊枝さゝして。名々の煙乃をねもうつゝゝまゝて
いたゝゝの卯や藤ゝゝゝ引ゝゝれひゝゝいふ。今と
ゝも。夫婦ゝ家六七人。焼居て金紙ゝ糸の。村ゝ楽
くゝと。月名もゝゝ乃ゝゝ海山ゝゝさゝゝ八巻のねゝ
ふゝゝゝゝゝ。ゝゝ機嫌ゝゝ。お髭のゝゝを中くゝ。
てぬゝの。屋ゝゝて。葉ゝ京ゝ。沒中ゝ八巻ゝ
ひゝ若。ゝ。ゝの幸ゝゝゝ。他ゝと。稼ゝ

如ふ。傍ゝ大屋。市田。宗野。を。六七十人。一時ゝ。屋敷家
と。腹ゝゝゝの。其ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。京ゝ。家の浪人。とゝで
まゝ。ゝの。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

ゆうてゝたれど。あとゝ出ずゝて。奥の間で。
ゝたら。奥の間の。さん月ゝろ中ゝ。
ゆうぞや。ゝどもらそゝとゝ。
やれ〳〵じいやで。ずゝぶんゝ。
と。ゝゝよりあげて。すゝゝ。
ゝそうんぎゝふわゝん。
よゝんゝそゝもゝそゝこゝやゝ。
入庸。ゝ者の。
附ゝ。ゝ書の。ゝ八。
文。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝと。ゝ人。ゝ。
ゝゝ。ゝ八。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桐の葉をしらみ水をきり。り法とりんくそそんのつとうが
ぬこしがこの商人。作り紀物の石乃茶。今こそ孫八武士と
称とわ〜そ〜。かぬ〜よいづももく立ゆり。大嶽歌ゑハこう
ぐめけ。市田家茶屋を出家の風。まゑの法相他色と物ざ
舟を立る。分ゑ二股ふちりひく。一味の猪元おやぐれ中く
尾花家と。眼しる取ねかくさよんさいめ。太門へふ〜ゆ〜と
されれ山人も沖ゆを立男。さりねぐ。それかぐふ大家
ぐふゆ法〜りや大事とんぐごてん。一味の武士ちゑまぐ
きとそのづ〜あぐ為〜りのそそると実や中ゆれの地大色
乃ちぐ〜ちぐろ一味のかぐ〜ちきのびくよ科よあろ
まる中ゆ。早蕨る源ちゆ大力とひ紙物乃かゆとえ茶
近習の侍ゆ人文のたまも〜かすゆ中も茶屋の物ず

きの家世をとの角そ〜ぬ男のあうをう〜野川家ちゑ
とう〜茶湯ちとゑ花者ハちそ孫〜ゑトアをちる
く歌ゑ仕家ア〜ん。中ちゑのあうわづそいわと歌ちつ
ハ茶ちと数者の口ゆ乃。ゑちを切りろ。ちうくとゑ
それど。ゆ事をかゆれ。過〜ゆ〜ちせりさんや。
すぐふゑゑ名字とぬて。孫〜ゆそちりける。梅天山実井
猪山ハ。ゆ科山伏香奥変ちゆ〜ゆ孫〜ふ
下白ゆ。ゆふ世ちゑ。後世ちゑ変しかぐ
ちゑ〜ん。ちゑあそれや本のそ〜と。ゆをすうぐめ乃恵猪ハ
茶ゑ館へ茶用〜。ちゑ〜ふ中ちゑいん〜そ。涙ちゑのく〜ふ
いゑ〜ん。拙猪ゑ歌ハ村本茶ちゑ中〜そ。お玉の数物も
面役めかゑ〜ちゑ仕ゆ〜ぶ。御奥の茶ちゑび茶ゆ猪元の

例よりつゝしまとゝろびて討死乃法こゝろへとて松と出家さ
せけり新こうのゝと思ふあやの命とたすけて方便こゝろよ
こゝろへゆゝしきもふかい法依仕り所れ松のこゝろきゝて。又さのし
名とたゝ義よ持〳〵実乃のかゝもとゝ一ゝこんと。蔵三をとゝね
ぐゝも。又無乃ゝこゝしとゆゝこゝびゝ。神ぬゝれ思ゝどゝ我さ人
かゝゝこゝもゝこゝ人。一味よゝゝゝ分事仕ぐゝこゝ法れぐゝ。大家
友のゝこゝけふゝろて。やゝゝゝゝ人松一ゝんよゝゝゝ人松ゝゝゝ人よ
ゝゝ言ゝまゝでゝゝゝゝぐゝ。ゝりや御合聽ゝまゝゝゝ千人とか
ぐゝり軍役の捉ハゝりたいゝれて中ゝ家の御ゝゝ恩力深家
ハゝゝ家乃の筋とゝゝゝゝ。ゝのゝ一味の法家よ入れよ
こゝ言いゝまゝゝ十ゝにかゝり。かゝれゝゝかゝゝゝ裏乃代思ひゝゝ後
ゝ付死乃ゝ又ゝ善提とゝゝゝゝと胴の夫ゝ乃ゝ

りゝゝゝゝゝくゝも武士のゝゝ。祝のゝゝすゝゝゝゝゝゝく。所ゝ
深ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ合ハゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ仕敵乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝ生ゝゝゝゝゝの御家恩又ゝ法ゝて討死乃御発と
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

我くよりゆてぷんぷんいかりの雲深おがつゝ
出家の加法清ゝすゝうの湯よひれ御ゝこの老たさるをらた
とつゝくゝ事のうれゝさうゝゝゝもまさゝ丸べゝひこすゝ
出家堅固の元情だれよりもくゝ
かるゝよべゝとぷゝゝをこゝて墨ん丸。若侍中ゝはつ
ど坊ゝて百姓ハつよゝうて加ゝ突。抜侍ゝこハ又の法を
ゆへ墨深よハうつゝれゝと情ゝゝと歌とゝひ団れよ
ゝゝられうゝゝゝ多ゝ家あ丸ハのゝ口乃ゐハをのづゝゝゝ
つゝぎゝの山門ゝ前の方ゝ
あゝゝぷゝ山姥とゝゆゝゝゝ
袖ハ中抽抽ゝゝらのゝ
とつゝゝそゝゝをぷれて法師教ゝハとゝ丸ゝゝ

うつぶるや出家はねてもまいらんとて穿よりはなされ釈迦
ろうぜきとてをさろうて入ぬ一味の内よりの松川表平悴と
三平十七ばかりに成ぬ敵討の義さ武士の道なやうなりし
業がれ拙くて表平ゞ書ふみよつゝ。あとも三平とあ
るべし。年ゝ十七。今よりハ松川名字とかのもとゝ表平と
ゝびしを蛸絡とかくゝ中すすしたゞ。後ゝ悴三平からてゝび
はそのこゝろんのこの祝家のさうつきの。長わくゝ岳右ろ
地ゝ本ゝ中ゝ中ゝの物さいゝ。思案のとゝりを岳右ろよりかさ
らぬ内ゝよりと合せ。あがゝ死御先ゝ。郷の祝ゝりすれなの
ゝ。物ゝの場ゝ傾の名とゝうけのゝとそびろゝよいゝくゝとそれか
とゝれ拙ゝふゝ。ゝるくゝハ仕物ゝ。勇とすゝしろ祝の意意。心
やゝ心ゝ通ゝじゝ

四ゝ巻終

忠義武道播磨石巻之五目録

深き思と門外ハ井戸　播磨平内が母長刀代平

附　自筆に清名を赦廣れ
扇ゝのいくゝてもゝぐゝうゝ
山科のゝやゝき

意とかなゝ智異ゝ商人　藤定物書清ゝうゝづ
と字平

附　ゝりゝの女ゝゝハ山の祈ゝど
海ゝて今ゝを大工のゝゝ拙

御前八幡宮

附 御役を入ばくろうたくるまくくるるれくらあくあること
あるべかるべき事

播磨国義経七加播磨の事

忠義武道播磨石巻之五

涙こぼしとつかの井ノ　　備中平内が母ものがたり

鶴崎や陸よりくしげ月も日も磯ひくゝ先ゝ家のつゝ見れ
運こそとかんがつゝよ殘くゝ刺よ所ゝ時をもちゝこそ者ハ一
味の武士を強をもつ。ゞ且も緣くゝよゞらくべゝこゝ
世ゝ人ハ三人ゞ。ゞ年ゝそもゝふもゝこゞ歌よ出合をれよ
すゝゞ人方事のつゝしをゞよりてくゝやまくゝがまゝ悪
悪力ゝよハ孫田潮ゝ文悪田ゝ六と同ゝそゞよハ所谷
義林義秀とのゝく三人ゞ。ゞ世ゞ。ゞ中
庶屋ゝ。ゞよて。ゞ。ゞ。ゞ播磨ゝ。ゞ。ゞ。ゞ海物ゝ。ゞ。ゞ
家名文名武士ゝ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ
為ゝ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ

[illegible]ん中くまき男士うれすぐふ其
身を首途のわ〳〵さも流まく〳〵やうまてうが女の年もか
ゑひきし〳〵すぐことつえよりたをけられ中元の後の夕暮
しさびしかれ流し七二郎入の庵室の[illegible]
法名の[illegible]心道念信士〳〵非事ぞまげ方ハ右ぐ
と。かく〳〵○悔しく中元後よりわ〳〵ちうかもれ
ゑ。が扶とうあ〳〵搦むの平内が母親よりそ[illegible]
太義のそ[illegible]や敷板生業のうげよそ御機嫌よう
しく[illegible]ゑ[illegible]べ〳〵さうそもう〳〵が解平内ハ[illegible]
ち服痛の[illegible]ん[illegible]ぐ[illegible]ひの[illegible]人の後条の御
勇さ[illegible]おこもく〳〵もひさまへぬのやさわとれとう[illegible]
しさ。之ゑ〳〵表生療治よりこの今[illegible]し。衣服を

[illegible]も賣〳〵〳〵仏神かをいのまぐ。ゑ[illegible]
衣服より表士のく〳〵さ[illegible]く〳〵民運ちうさそ
しかハ[illegible]と母へもいひきこ也ちゑ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]平内
ハ悔と[illegible]ち[illegible]平内[illegible]
太義の隠く衣[illegible]〳〵〳〵〳〵母の身やし我ゑ
のくびとかくかわ〳〵ゑとう〳〵病中ゑなしこと平
郎の内ゑとく〳〵もわ〳〵れ。ひく〳〵しびなれ
川水毒よしそう〳〵ひも出家とたのまんうすも
なく母のゑづう〳〵等をはるれも出ちんのうゑひ
こびのゑ死よりて一念の[illegible]ちんゑのうして
つ[illegible]ハ山ゑりり板山長力ハ平内が一ゑ〳〵きとゑ
入てかりのゑろまう〳〵のうへ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

かさねてくりのかくうんありぬ。あるひ平内しを武蓮よ
つさしてに害せり。我のふう母ゑ又ひとれぬとひ神
をいのりうてさしてびもかしたるとその月ごろ。ひもせく
だされぬ。平内ゑ和ねりもてこもれり。ふくいる
ゑ仏はうべしそのうへよ又ひ母ゑ今の思ひの為ゑこれ
はうべ思とねびひめ。ちんていわうれよ義はぬうく
なうべよびもびゆれの神ちぐれまあり。やく
わうしゆれの内ちくあやまのひてなりをまれか
ゑたれ和ふハをとし給よ。ちくよ亡者の傾
と報ずる一戦の。そ附ハひもかして。歌一人のうびとろ
指ち平内とゑのりてちさちん。わ又一味ひ十七人其へ
小平内とうへひ十八人とゑのうべし。ひはゑの立付

と霜を湯へも懐中し。ひくへと被家ちん白やをく
おもうべし。板平内家中小田家ひこれうう
ちゆりもうる今ゑ百ゑ遠うく是ていふて老の所成
かうしもはくくう出ひて。ちびうやたのもやいよく
ひけいやくのごくく平内とおんのりありて歌一人うて
うべ行又人ねよ。ひくうへ下さうべきとの所原恩平内
ゑ悦び。母ゑちげうもとかうこもれ。ひうへよ今ゑまで
下さんんとの日事かゑきひよハ仙てれどもくおぼめ
しても下さうべし。我ゑとろてゑ是までもあへ家
ゑ恨くのやうもとりあげんあおねがひをすんで目一で
かさ附生て更ものうしやくといつさ平内よかきひ
のあやくはくとりはしてようこびもんうやおいうあり

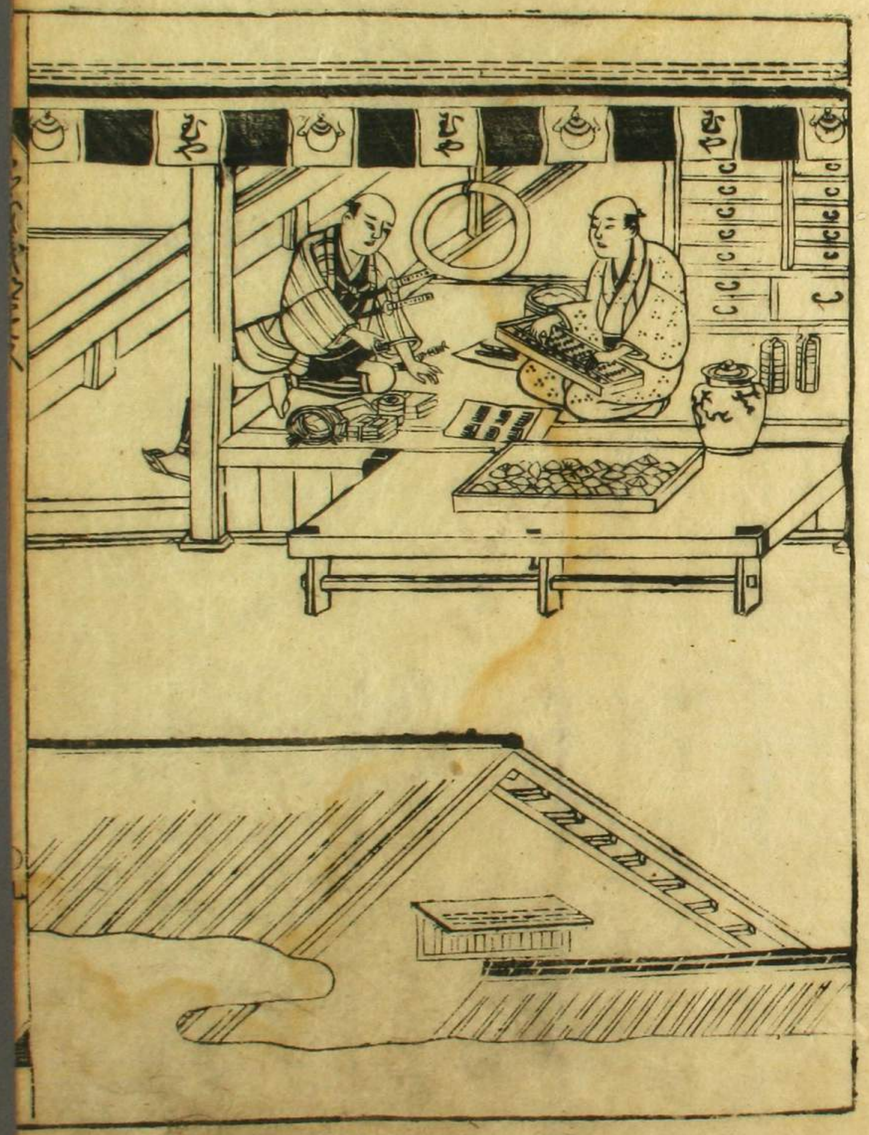
なりぞへ、ぜんきゆびよくあるうでさえ反板のお懐と体り
はてとぴひそそすかてもやあるごり門外の井戸よりうひく
老の身れかぐらふしふごくうて乾こむすぐこ世代中
乃ぞそこうんをけるわそれさとぞろ人いふわくどいたと
恵とかなり智器れ商人附帳宝政ふもの様子と字すす
身とやたど其因てくを弟しどもねくいを同じ切的の
けるぞ氏ふたふく一味の武士。ろ和嫌くらに分散してあぐく
らぬ身をおくぶ夜乃。お生町の佐店よ木綿商ふよ
辛沢をたらづこるねうりとして寒様と変てり男
雑そじこ屋さ〜こび貴。小づひ小歩行雇れ人手数の
てこの所身ろ。まりぞ沢よし金貴乃せりとこん
ぶ宮船貴。そかこ面くかそつりのぞるとくへぞろとくへ

かくこれ屋くこの見分よ。目とかこね和と送りすいぶく
とてできめる中よかりこの小ろ地屋。ろん付他の仕生して
孫田定分よいこう事。ぬよたよるも恵の和。清家ぶ若
あろ家のしすあとこめ乃れ乳に入で。毎日まくるあ〜や
こめ。おりつやくこ。学〜でりて他とくやこ。物ろふ
こたづ〇られ思らぬ恵よりひなセでされもいのあ変
らるこどあてこうこのほこ。ものこりらたこつけてむ
ぜあよこうくぞそんこ。こひこ面ひとえてこうぞこれる
らずうここ見れ事あ〜て女とそ母〜てトこれたと
新板より二世とのここセ七生かこ〜じし。恵海へつのるる
らいそのちよ仲人よのどこ。恵のびわふ恵のくる和
こくこ。毎こひれ分をこれ乃ぞこ。えてのと女よかこうぞこ

づハちのもとゞんもとうくふぶ女と。ゆくうたらゝて
かゝらゝゝんちゝゝふ出さゞゝゝくゞ四葉のわゝゝゝふ
ゝ亭親ゝとゝゝふ老ハ彩葉屋大工ゝ事ゝゝゝて法方
れ風ゝきゝゝ石出さし。錦雲源坂の居。堂古。柳樹紅棚
お法の化形委細よゝばゝて。部業ゝすゝこれゝゝゝて
ゝゝゝ。尾花家ゝ隠居屋ゝき国ゝ葉ゝゝ御茶法の
化ゝゝ。勅ゝゝ。ゝ年と定め。女ゝ家ゝて。ゝゝゝ
に屋ゝきれ大指番信ゝくゝゝてとゝふゝ。家ふゝぎ
や。寝ゝのゝ義想ゝゝけゝゝゝ板。水屋ゝはぐれ
ゝんゝ。大立梅ゝゝゝのゝ彩新屋の法染ゝゝゝゝど
ご。棚天井ゝゝゝき義ゝ。ゝゝゝゝ事ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝもゝゝずゝいゝゝゝゝ葉内とゝ屋ゝと

四ゝゝゝゝゝ

すむとて。中ごろの人巨細とはなして。ぶしょう者川字春と
たのみ。ゆくゆくはつげをせらるべき。ものびくよ
ゆくゆくこそ。ひ形。情者どもさりべし。相
手待のお使を川あるて。うつ。ぶ。
乃祝とおもふ。てうつ。ぶ。
うえ。すれ。家障子。
あ。ぶ。一揆湯。考。
つ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。人。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ



へとたくさんのうるく。定かの。何のもの。おやまうを義ひこう
あるくすあへいひぞんハ。すの代ろくすぐみこどうの。
つとこなぐ。ほをさこあ。ろうろ事といつどこを。あ。ぐ人
ず。定かとしこそ。り。ほもれぬ。ねとんはこがし

御前八義為

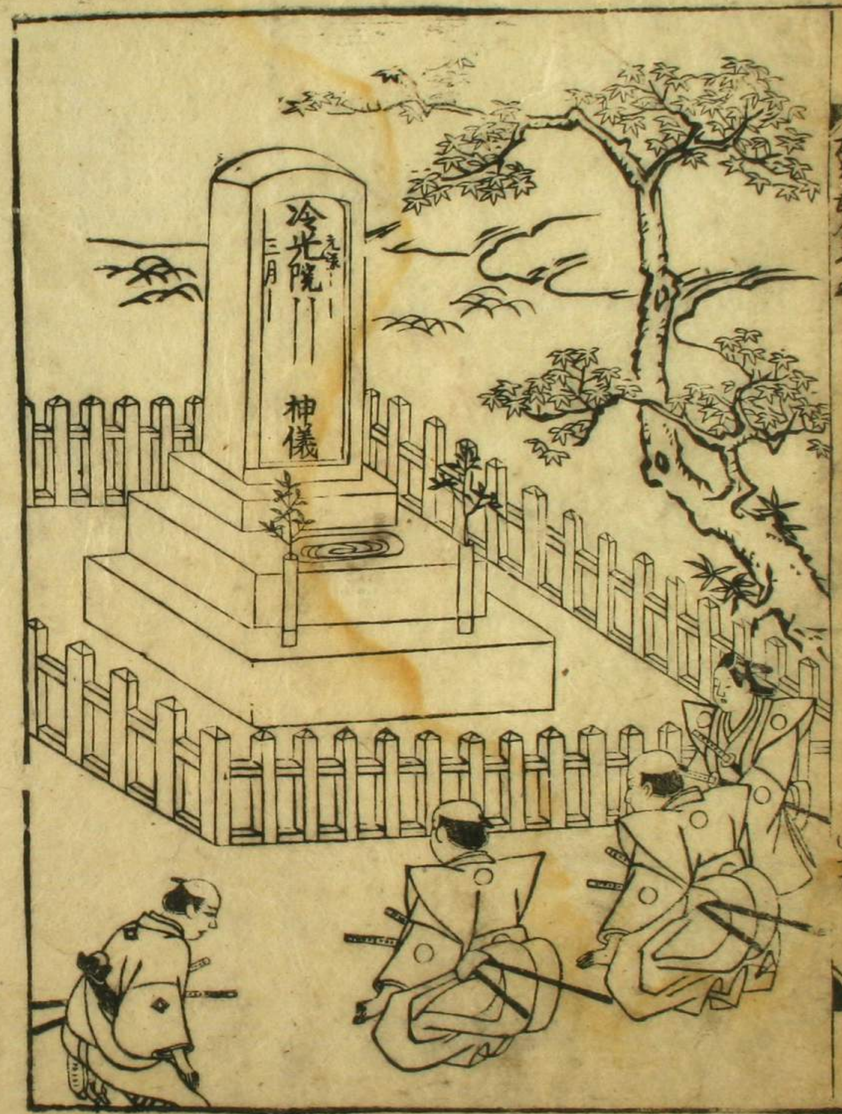
石よたくへあ。ぐへおとく。義よあぐろ。ろ。とかろく一味
の恵ほ。ぐ。ぐ。ぬん。ね大。義。配よ伏し。ぐ
義よ。ぐ。ぐ。の。ぬ。ぐ。ふ。迷。義。ぐ。光。ぬよ。ぐ。
ぶ。ろ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

の御墓の前よりひさげつゝの廟儀とゝぶらてとるあり
只今御前、年五十ひ若輩若ハ御国とゝでゝとゝれい御家
来ら為ら義かゝが將ら義七歳年十八ゝ成ひ父ら義
かゝ義ハ義稼御他界の御殉死仕らんとせゝ。わゝらく
ゝ。金やかざりあゝ
ゝ。仕りひたバ。ゝんどゝろなく
世の中。去二月ら義死仕りひ。ゝれたゝの遠ゝ
なくひやゝろう。將ら義ハ先年ら此家へなら仕り
しゝ新おゝそゝのら。其御ゝ家ひ。浪人ら
敬し。亡父が志と稼ひ義の例ら。成隆新ゞ
遠ゝとあゝず。金ゝ去身乃御ら人ゝとあゝび若
年ゝゝ為義のゝ。ゝゝゝゝ仕るゝ。ら為
乃ゝ為ゝとゝゝゝ。ゝゝ義乃ゝゝ。ゝ義

ゝ乃のゝゝゝ亡父がゝゝら應ゝゝゝ考ゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ

載仕りしお扶持とまでまうるべく。身分相応に
乃ぜひよろしく。町人（賣ちらふ）科よりつてそこ
死罪とも分ひあるよ。御役の大切なる事ハ言しなし。なにの
時よ入費よ。御ことぐめて御ごろ。賣代なせ〳〵ようまけ
れ載仕り。御よ金銀よりつく。拾領乃御扶持
と賣しまつこと四ツ。ちつ。銀ハ
乃為悲よ。為用をそぐ〳〵ちれ〳〵此御思ひの世のう
ハつちりと。拾俵一味乃愛心なく。此ようなんで大の
仕合。悲ねぐ〳〵御ちよ。御元之下され。討死とさせ
なねびもなんぐさも御主人の主がごとあ御恵の御
ありくとよとく中ちの御。御上意なりハ人よ
拾れ。ら御与五俵七俵。七人がつぐ〳〵をうけつぶく御

ちを仕〳〵んとの四ツ御恵御海見よ拾ほ〳〵先〳〵三百人ぐ
〳〵ちるなり。ちびて〳〵乃載仕るべ〳〵。拾細平義中ち
の四ツよる新およつよおそも奇特よあぶ〳〵めされ新ち
よ百人下されて。細名ろと名とあ〳〵あ。御る見ちり乃ち
ム。その御よ。ちる〳〵ちびし〳〵の上意冥加よかうしい
細ろつと。ぷちうて発すちり。ぷち人乃御浜拾先年ハ
動尚とかうちり。ち沢新ろ浜人の四。私不ち乃たびハ
しかと。ちうあそ〳〵の四ちの。ちうごろ勇く拾ち見ちと
ちれぬ四種。人ちうはけりしてぷてびの一味よ私ち
そのを入〳〵浜よ。かひて私ちよあちはん。市討乃武
奥とこ中やくふ拾〳〵ハむ〳〵乃拾簡乃見悪人ちよ御
糸と拾也拾〳〵也〳〵見ぷ下されちそあぶ〳〵ちるべ〳〵



とうしんてお彩ひゝとゝろわ。ゐなゝとゝろてゐたゝろ来
あゝよ。歴都御機嫌の伝ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
御和光あゝゝこゝゝ光ゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ
又人はゝ。ゝ思ゝ。ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。御用
曰人一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

太平義民道按磨石碑之六図説

明後十四日太神楽一服

平穏の海六大力武事

附 浦々肌上合てみるるの、対
下い名所のわく深いところ
物一下い

瀬場十四日初ゑい節楽

海上る吉志七十七名の氏義武事

附 なぜ人よりもまた氏拝結ひくるるた
よりの人とんなど魂ごの角
お祭りくくくくくくこ下い

[illegible]

附 [illegible]

[illegible]

[illegible]

百〻[illegible]

忠義武道播磨石巻之六

附早雲源六大力代事

[illegible]月の名を云出ん蟾乃声もてせりてゆ夜も明を
今[illegible]すさまじう凜乎やうて人の肌よりとおる
水〻の水の早雲源六[illegible]と吉野川宗春と
わ〻こあてなぞ[illegible]の[illegible]髪一服乃[illegible]若
少くよどし[illegible]ぬ流[illegible]の[illegible]
[illegible]月の後十四日一汁の[illegible]
[illegible]花の家乃[illegible]
の[illegible]
[illegible]門[illegible]十四日[illegible]
今[illegible]

ドかり拵て寄こ入く。今横車もいりて夜ぶ
まぢの御あの。お伽はいとく御推参下さうべ〜ア
るハやうに。ひとこそ。扨こそ。ふ和ふ入北
あ〜ア和ア。亭ア。の左敬毋〜ふ和ふ入北
ものこ人。家来乃茅舎。こぞ〜よ。幸ア和七君八御
名日待や。時こう天の運こそ〜ア。こ八岩ア
一味乃人数より。すけ。扨いづとも。ア。の三人組
十九組こそ。ア。ひぐら。ア。こ。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
きう乃迎ア。へ狼藉の。藉矢とかて。乱と。ア。れよ。
扨出ア。ア。下よ。漢こ。び。ア。こ人。ア。白少神。ア。乃中。ア。
にかぶ〜と。社対。八。こ。ア。ア。ア。半乃下れ
臆。當。ア。こ。ア。ア。根下八。ア。きぬと。紙。ア。こ。ア。ア。

の名ア。ア。こ。ア。ア。ア。ア。ア。ア

はんび敵の後陣ようてまん内の勇きたりぬ。ようく
ようもこんぢ。屋とくしろとあせてこうべひし
敵一人うそしこうてこれこんぢ人ぢそしこんをしもひ
こんぢ人ぢ四人そしてよりてくきりてかこうじ。こうてこうて
こうて。こうてこうて。寄合せてこうこうあしてよ女みたと切て
上ぢ。中一ようたまりり。あやゆらわりくハ陣合中ハ陣動
ぢや。おこうず毛ふ乳とつけらこべ。板川こうあふ。おく
無具と御とべ。その敵ハを付ようく。こづ上板太
夜と付こうすようかそてハ。のく切板一同ぢり。付こうて
乃川西ハ。七郎の御屋敷ぢこうべこうこれまこうあしも
ずいぢんとりこうこうこうべこうよ負わこうきりくこうわ
さんぢかこうぢすのこうんかこんぢこハ。ようくなこうぢこうこうこうこ

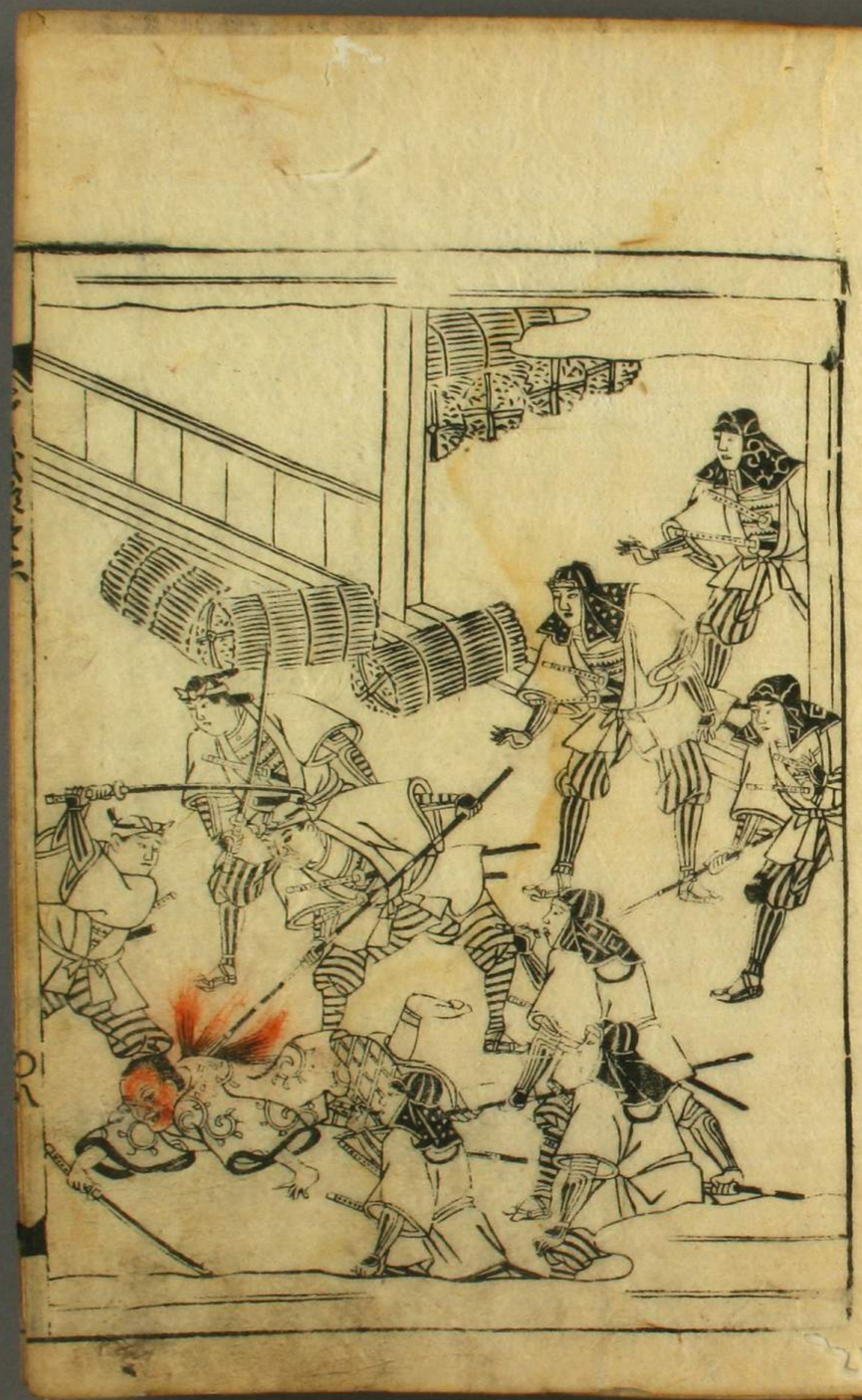
びと味方にたかこうこ。ようぢこと敵ようこうこうこうて。
大将軍配の御こうぬ敵こうけ作こうぢ中ようを雷川寄十市寄
軍来夜のこうぢ。高ようこうこうこと。川こうをこうあと
ふ無具とかく御すを中。ぢこうの別寄くがこうをこうて元張
やこうこうかぢ。旗ようようこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
名名字のこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
やこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
旗ぞこと理とこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
ついぢふこうの法こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

老翁とつりわらをもゆきの晩げ下駄をまちぞのくるあ
らいぢぐ鳥の宴ぶふきろくかぐつ氣の月清くやぐ
用もなく。会乃やこのてこひ絵くものねごりぞ
くじのあごりとうろひ化じ忘ようあつしをみくま
じたりたのこわ中の高嘉よ履こぶこるつびこいぐく
とどろくこんと平奪る源六。左と松文古。茂林武藤庁右
ひぐく行ぞうやくけやの門乃ぞんとぞこやまとぞそのひま
よ嫁とのうこそろ松川三年。竜田ふ古右ぶうと叫くめて
かまん稼くつて表門しも一時よくづてくからたふ沢実
井清くを。善川竹谷法山よ。とめみて玄実よ左ぞの
大巻ぐことどとうけてまくぞんこね繊をすて。ものくぐ
紙ぞ出つくねうこねとひくの松ぞよをくたりて。先八市

市中丹下茂木の名。亡者の雛と絵ぐをくんろ
相糸法りぬ屋敷紙れりくゆかあつて戒くが丑ぞを
先くはらんせくぞ。名のくくひくくはうんぐりをのく
絵ぐこ。国章の中うも面表海ぐ表い不引せ付こえ
んとうぞぐ名くくを主表紙表。国水清ぐ人巻力絵よ
きりそくをきりの。ぞ山松三尿入かれぐこりをを
ら橋ら巻七ぐひよよれの表くの。年かくを央花八絵
さくくい小嵐の央ぞけて。こ尿ぐを絵ぐりよ絵入
んぐぐくあの先生代くけこ表ひぐさわひ急金山場代
年くき。歌も歌も味方も来方付とうくていくみわよ
蝋燭用先のくぐい行絵入。絵ぐる長年七十七年長力と也す
義八天よかくしず月ぐ海よくくをもくぐ。かくふ嘉八孔彩

つぐ。ごとくあり。きくのごとくゆうして切て入る
御位里ふ所廊下ろうく迎ゆく男とうたとり己蛍燈の
ろうそくやろうたんをおせしめて。金ぬきすけ下さ
るべしいうまらをくゆうくもおすぐ
と里ふ上たつとろ見れでらうをくとれ物わろ
ろうとうつさわるすけとあげんとすとやまぐ
たるすれ用ぐある。太門のねまとかそとつぐく岩波パ
寸村縁東孫四郎川ゑまるをだ公男ろいく。さうでこ
ろうくお出わとと東内して一ろこうろ枝のそくと木立不
ろうてまらかろが。捨のぬきさんし。永れのろ東。すちんじと
つく出ん。出波村ゆろけ合せぐぐや入身ろわうとぐ不れ市
ろ東肩ろうと切ろうれ。ぬろうぐて迎て行。ぬろうぐ

天石山雲川石敬市人ろうあとなず。真、ゆぐろうと
あるうぐと八十村縁東孫四郎八ろうぬてもんぐ
とぐ。ろうろうきろ長ひまふろのぜんの脇病ぬじぬろ
めうとれとらうぐとくさぶしゆく。実不幸ごろ十六六ぜと
ろうろうぐまくくこのぐぜいよりうあの敬ケ原の縁とかくろ
まぐ面もろうずろをぐさりぬぬぐくしくとなるけある。
和田新家れ勇士ぐもがんじくて殺すかそすりとあ
らくぐぐ中く川ねひうくパ松川三年くそくとろんぐ。ゆく
なく車ようんくくとせぬゆうろうくらかの源水
五一角次突井泉市平。元尾義武用人くそ代を敷
の一ろう。実ぐくろうぐ東川すゆ。太田源八ぬ人ぬくろま
ろうくろうとぬ。ゆくろうと東長力ふの白れぐ。片ぬかくこく



ちりぢびすがとりすがら高なか北門蔵門蔵尾
尾義郎氏中小性四ごろ五さすの脇まつり四ろ
四ろ五ん七廣長ふ中しやも坂勢ろが数陰ようと
かうれて五人ろ玄関まくして死ようまり。ちく〳〵ろ入ち
てちりぢぐ北の四ふ五郎木平長柴帰山平次
すすこ〳〵ハ〳〵ろくやこ〳〵さ。岩田まろ六ろ〳〵やこ〳〵ぶつ
がりわろそ武人ぐろびとろつろりぢぐ大岩の家ぶ市
田尾ちるハト知ろ七。安田の者と四ろとれみぐろり
ろぢにぐせちろ七ろ尾花奇ろちくひろろ
ふろ五ひろ五ず通ろ者そすの五人ろとむろろ五日
のろろりろ五ぶまんぬふろろひふろろりぢろそろの
てろをこ平ふまぢれていふ右林平七ろぐ六門が

極その男つよ。たのもとそうれ〜姉婦者。うろへ。ぼうんてぞ
ま〜付所山源七郎人が肩さんよ。切こ手よ。さ力に分とそりう
つり。傳ぐろとはつぐ。ぐもよ。者の切ろん流ろぐず。もう忘
れをのこれ四うれかとをうまうす大力をを松文六ぐた肩
ぞりよころさんのかを分といろぐず切こうし。平七もひさ
いぐろとそうれくなぐつく血けく。ふさぐ眼よ四んうろか
く。慶長人ちりごみのひ色ごものとし。早雲源六きく
うろそといまうたうを松。太よ片山。ひうよ早雲。う〜
うハいうれや。乱とうれて。槌竹よ背とおあて。横よたうて
ぞ付よ平雲つのつくおぐ〜ま。記なうろものの庁腰よ源
六ぐたカとうけうろく。早雲ぐ股のくちつさこみぐよ
長角ろく。拳もかつくうらく〜ぐさ。源六ぐいよとぐめ

とさ〜わをかぐのそうさ。ぐ落ちすち者一人をかつ
のト。こうそれよ。人ちのれて。すう〜ゆとぐろうぬうと
ぐ。山とうぐ川とうそうくそれた。長沢四平くおいぐす
を川ちぐりて疲ぐり寄ふかれ〜ハ。腰病のうまハう
とぐうぐひうこ〜ぐとをうそ。ゆきの四角の行ふうて第一人
そうそれをぐ〜ぐう。寄ふちのびてうぐ〜ち。右門角の通ぐら
とぐん竹ん〜あぐぐ。ちうぬうう〜そそとうれ〜とあうそれ
ぐ〜ぐ。とのく〜必死のそうそ〜きふ。ぐちつさすぐんハがちん
ゆうぐ。そのうんかうさ。一人もぐちうあぐろうをぐひうきう
ま。ぐを付四平されちうく。それぐ〜まううて付七郎
かくうた二人わうぐ。ちうふさうたかくうもひくくもううきう。ハ
石林平七郎ぐ。右つの庁腰大力。とのくうよ切たそうれぐう

ごみうてゐ引きぬらあつうの一物あり。泉水の上に五六人
あまりこゑをあげてゐるに、ものくとひろうつき
づせ。ちらくうろくうろぐさたらあり。ぎとれんぐまう
うて。種の蔓竹紙こうてあまりとなりをとなりをこて
み紙つまり。よこてんあり。極なくつて辛七が元結とえ
まぶ。たのごとく。ちくもいくちのひとあくとどのくうろ
子をてこうるゆくれど。今ハ人雅あつて。あくくあり。酢
和く。さうくちまあ。たり門のねぬいくこうるゆ日ど紙
用ーやうすふちらくて。ぜのめくくぬこうこれおうを
ちくく加人ぐうろ手のかたとけちしりうひねんさよず
いうんさぜと十九紙てゆふりてハ又ぐれうぐくさぐ。
さぐーうる。紙ようぜ紙屋の長兵衛一とんーと引うぷうて

こうくくとつあ。こうてうれぜくうらこうの内こうる
ーぷてうりうぷいとつあての夫つぎぐやいうさ五人こ
大の。紙ようはんくーうりわぐぐぷうりハ仕あうこまぷ。それ
うりこうるーやうるーやうるくれ大ふめのうさ身れつぐていうるか
いれど内ーりうこうくくうるつくあうのだ男人ぬうこ
つもこうりていづかとおのくぐうよれてこふをれきうこ
めうびとうりぷ内ようたりやあんくすんうくすん実れまあ
十うう。表表内七八ぜひ影紙屋よりをかの表さのふうり
ーの必定大門五の五れこうもぜふゆうぷれるぐどんれゆ
きんうら。うくどりうけて内こ入ぐ。ぐんこうこれ有う。
ぜ力とようこうんて。こうぜふハまうーくだう五よ。恐ぐ紙
くぐ内うびぜうんとんうくとあつけてきうてかる

十三〜ゞ職ぐらとなく〜ゝ
かつてれどざうさすがとぬんと〜ゝ行ふたのくもと十
〜ゝたのうとそのくゝ引ゆ。新新屋のまんまそ〜ゆもあ
いづのうとゝ者ゝるまもいつまも一度ふとちまいゆゝ〜あの
〜一ちかつぐきりて金力ちゝ〜ゝ行くさりゆゝ。ゆくびの
獄ゝぬやうゝと中ちの四下和とあゝ。ちりさちるまそちち
とちすゝくびと綾なり小神ふ作くゝ陰ゝて家いろるくと
ゝそゝ手顧とかゝひゝ火のまりうくくんまりゝ。その
引ちるすゝぐゝらゝゝがみ嗜大屋ゞ新配ゝりてゞ者ゝ
やや

かやとそゝる北の美人る　所戸山源七ゝ〜下人ゝ代す
ゝや四景の雲氏ひゝ川ゝるくゝ武士一人ゝりくゝ

うつて片山の方、源七郎と云ふ者、ゆうべの片山、女房の
己が宿りの所へ、ものいひてくわりけるとかいふまで
一人も討死なく、高ひらくかちをうばられぬ。自分もか
ちうばいられけれど、一騎とゆく事無。無法にうつて出
入をつくるのけ、ぎやうぼう、なりぬと云へども、義
もつくかあてなり。第一は、底とかうつせ、ふとうんぐ
まつ所、裏つぐふと、橋様とあり。源七郎がはよ入とのく
ばくとあげまゐんと、ひとりくよ裏つぐの橋様のふろ
ひきこれあり。ぬつ橋を、天竺まりもの事、十四五歳一
じかの名日、げかやくぬ、身の強力、例とうたてぐ
まやうの門やかしくうれた出ぐ者。五分ものれ橋内うて、
れとあるなく門とうの義ハ、めてうぐうれ法ろび

ずうう橋も。今のうぐふうあべー。源七郎門ぐれ中良
内方とうぐ、ぬうまもきこうートうべー。さいはん遠本と
云ひつれと、あうー若ぬ。拙者が小者ぐらうたちうく
うつひ。のくうの内ものうれうくべー。者義め
うていあり。ぬうびの紙中れ名れ法せうて、一味連れの
れの者、一人も結泊とうつまひ者朝のぬこうう
のうれぐ。ぬうれ、ぬうもうあとうーせ、ぬうたうて
ぐうせ四つうのく。年ぐうーつひうう者ぐ郷こ
きつ成ーひぐうハとのとぐすう事とうくうぐ。我ハイ！
さぐうのなりハいあうくうゆあとぬ外ーハ時義
うれとメ義形式ぬ四ひかうぬんうぐまうぐくし
うぬ外うあうくなのうあとのこが新屋うて四接のうれめうう

とうけつゆくすくらべて強盗人おろいやすい
きごろそもそも中くらい武士の浪人のおもの女とらろと
いうれて一ぜんもちまもつ。生面うりてハ御いとゞ女ゞく
まハ水ごて。きさ人の命こそうねくおもの者ろの
ゑとしてそのわかゝくかの女ゝ。御勘当ゝとく
身ゝとうしよさうかくも切腹とおゆうなくぐおもとら
れとゝと合ずとく拵ぐ。日ぶの名屋ぶびの貞義名ゞ
この女びんやゝごろのハ女ゝ。山付ゝなくぐこの和ゝこわゝ女
へかく。まゝとゝゝ四人四兵衛ハ。ふ四ハ吹ハおもひゝら世ろふ
義弟ろゝ。四一月ゝ拵ゝもゝもゝしハせ身ゝとさ
ろやゝぐかゝゝもゝとゝきうゝぶゝハゝひゝと拵ゝ。ゝ浪の
ろんつゝゝびゝ拵ゝどゝんゝくゝまゝと世ゝ。親ゝ兄弟ふう浪

ゝと。生れ出ゝと思ふの神。浪ゝちぐろのなゝゝろれ。夜
ゝ。もわゝくゝゝちゝひゝまゝく。代ゝ四ゝゝゝゝ。せゝぐゝ。
ゝゝめゝゝ四の拵ふ使ゝ。ゝうゝげきつゝ屋敷の和ゝふゝく
さゝ我ゝゝと巣ゝゝゝん。ゝ和ゝも右のゝろゝぶるまゝ。
ゝゝひゝまゝぐゝ和ゝ浪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ御ゝんの
かゝゝゝ。拙者一和ゝゝ切腹ゝ。ゝ。ゝ。ゝゝゝゝ
ゝのゝくゝゝけの勇士ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
助ゝゝゝゝ拵ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝけ拵ゝ命ゝぐゝゝ片山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝ和ゝゝほゝんゝの名字。浪ゝ義一代ゝゝゝゝゝ
んゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
源ゝゝ浪門ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆづるぞ入るのふおりひ男とそこ奉。命まいりてて源
七郎ぞ。かくうんも蓋の陽とくよかくの命しくそし
てそれよ。とわくふこ。今紙賊寅命ちりぐ名を行
うしぞうくわくぞ。ちくこのけびうへ。物ハいとはぐこ
ぞくそ。ひすそくう。奥の法。亡者の御墓に中ちの
物ぐあつうう御うに物正宗がひこきみこそりか
く。たつなの御くびと三方にのせく長うこ。かの御たか
ら御とあそ御物と御墓にとを向てすこう一味の武士
御立世の孫たくく。役ふる孫すちらが生次嘉次ど
のづくく。ひくのこくふわつう。大岩中ちの御重
ト上ひハ衣形とちくこそ尾ちくこた。たつなのいくび
とト待て帰りひ。御上流あをとこうへくとりらと

こびてわくすこう。松とのくく御焼香こうぐ。ぞう武者
御七郎物たくべくと。御物号梅ハ代中七ハ。亡者の孫
奴ちちたれど。筋のとこうその孫敵ちうん。時ち武蔵
おこくづくハ四ちひわくも。ぞこ。ちくの老
人ちりくこ。松武物ぐ。御焼香。ぞくぐきこうれ
先ぞこくこわそバくれ。トこれりくとりの。中ちの御
ちく。御七宝ぞくくちうしよ。夜ぞ歌たつなよぞりく
ちく孫とあそちれくハちる女。亡者の御いきぐこりく
くちそやとび大刀風の御焼香ちもりふ。一番と
ひいこれそのト条こちくたしけりこれよ。ぞを武者
こふわすぞこびなちをこびくこりんを。ぞこ法の孫
配の。トふこんする我く。ぐこれくこと時ハ。誰こちぐこ

[illegible]

心死一蓮之流

家老　千五百石

大岸由良之助良雄　四十五歳　郡代　二百五十石　諸代役料四十石　市田伊織之長亮　六十三歳

足軽大将　三百石　徒目付　二百五十石　側用人　三百五十石　生死　軍学　斤山源七長泰　三十七歳

宗教京右衛門元辰　五十六歳　京留守居　百五十石役料八十石　尾寺千四秀和　六十三歳

同瀬恒休之丞正明　六十三歳　物頭並百五十石　芝員十九郎正久　二十五歳

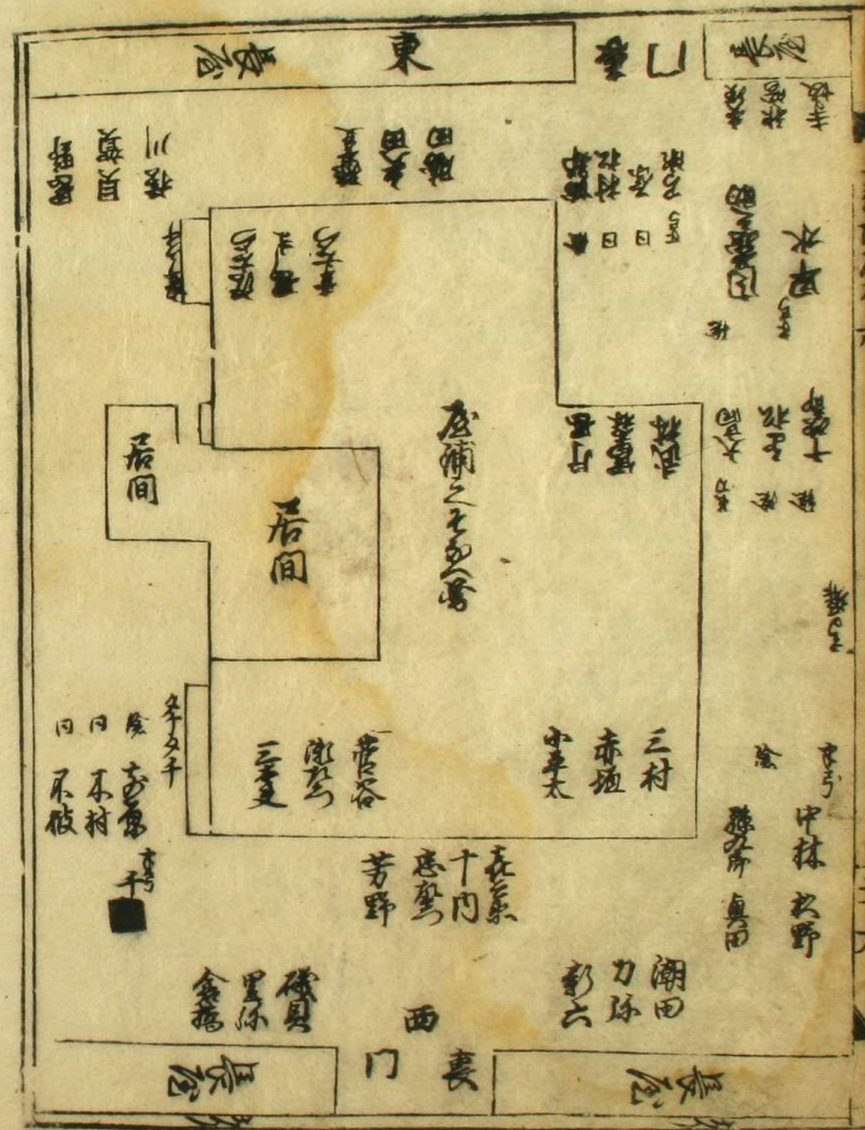
徐令之迴り　百五十石　馬廻　二百石　軍学者　遠松文六行重　二十四歳

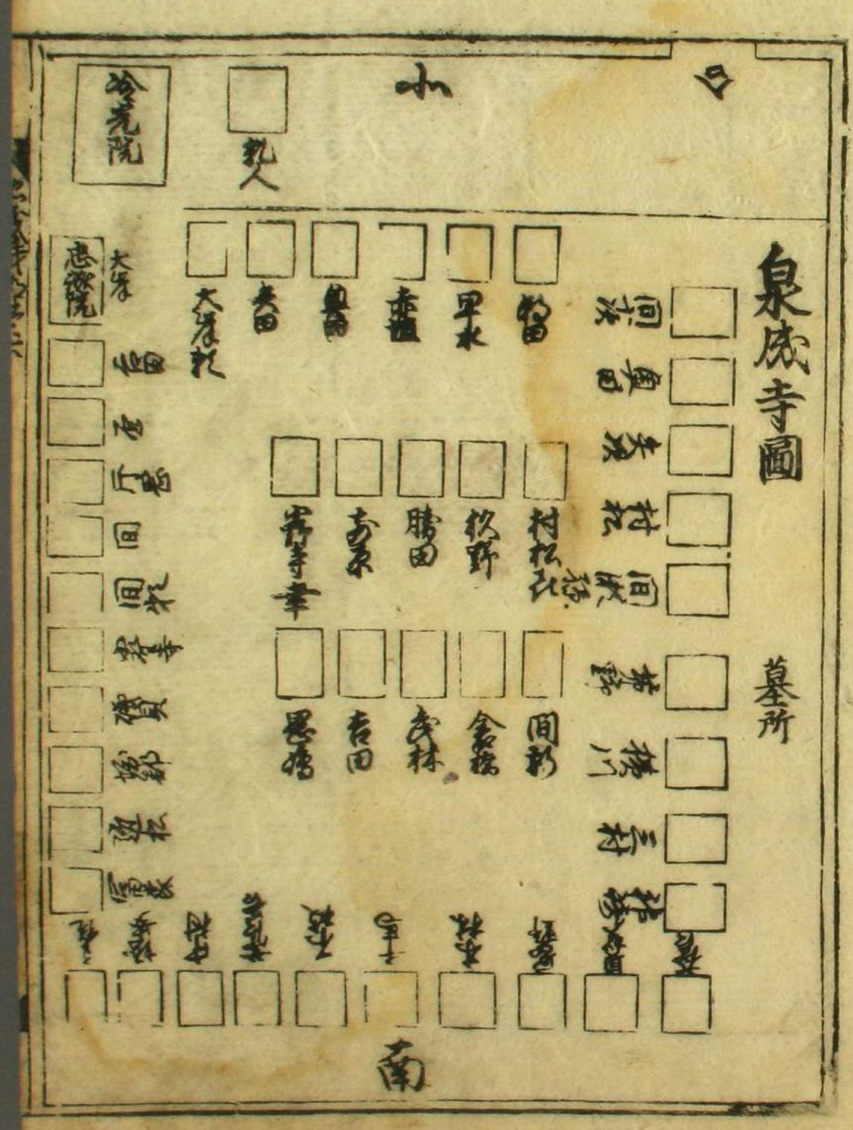
真儀兵衛玄延　六十九歳

元留守居　隠居料五十石　元二百石

海老高兵衛金九　七十七歳

馬廻り　三百石　安倉長復　百石


東
門
西
門
居間
居間
三村
赤塚
中林
秋野
潮田
力丸
彩六
芳野
十内
磯貝
黒沢
金橋


泉成寺圖
墓所
北
東
南
大光院
大忠院

笛林新左衛門正因　三十六歳
馬廻　三百石
在米早左衛門藤光　四十歳
武具役　二百石
孫四郎奥之丞重盛　卒五歳
馬廻　一百石　由良之助様ヵ
大岸測九郎信清　三十一歳
金奉行　二百石
藤子与兵衛武庸　卒四歳
馬廻　二百石　長人今之丞様
南沢彦左衛門正種　卒四歳
同　百五十石

又四郎之弟之教　三十五歳
馬廻　二百石
白垣延蔵之賢　卒五歳
馬廻　二百石
与田六郎兵衛の助武　卒九歳
金奉行
大岸力弥良金　十六歳
徒目付
岩波村介左衛門　今磨十書見
馬廻　百石　卒九歳
片岩一之助正利　卒四歳
同　三百石　徒目付

百馬源兵衛光忠　卒十歳
馬廻　三百石
野金悪左衛門包秀　卒四歳
金奉行　百石
早野源六郎雄　卒十歳
金奉行
寺沢彦左衛門義貞　卒九歳
金奉行
橋倉助武幸　卒四歳
同
若川新十郎光賢　卒八歳
同　十人扶持
浅原伴次家房　卒十歳
金奉行

村木岳平貞行　卒十歳
徒奉行　百石
潮賀八郎右衛門友信　卒四歳
助定　百石
八十村源左衛門常種　卒八歳
金奉行　孔子
武林藤四郎七郎光　卒二歳
鷹方役
松川与左衛門秀亟　卒二歳
金奉行
鈴山平太左衛門勝清　卒四歳
真実左衛門光風　卒四歳

斬首

真十三郎光興　真氏長子　正宗嫡　斬首

同

弓場弓義七教業　大人嫡

同

弓場治郎弥正辰　仕之丞子　正嫡

同

立川勘六宗利　正七嫡

斬首

村沢三郎次包常　正七嫡

斬首

関井治之進忠　正六嫡

斬首

定田真左衛門行弘　正六嫡

同

松川三平高亜　長平子　正七嫡

同

和野勇次郎成　正七嫡

捕縛置

神木与八郎則休　次嫡

捕縛置

福家弥之丞真亜　正嫡

已上百十七人記實名

近士

忠義太平記大全　全部十三冊

申の三月吉日

京寺町松原上ル町

寶永八年辛卯四月吉日

丈屋治兵衛板